

耐熱壁に貼った沖縄の琉球石灰岩



ユーザー訪問>>>

古川 様邸

DATA

青森市桂木 2020年3月竣工

■床面積/42.00坪(138.84㎡)

■使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(一部外壁、大黒柱、柱、床、内壁)、アカマツ(梁)など。

広場に勢ぞろいしたご家族たちが笑顔で両手をあげながら見上げている記念写真……。広場ではなく、企業組合県木住が青森市浪岡に取得したグラウンド並みの敷地で、ここへ移転、完成した新事務所のお披露目として行った「ユーザー感謝祭」(2020年7月)の写真だ。2階の窓から撮影した約50人の中に、古川様ご家族がいるが、そのときにはまだお顔は分からなかった。取材当日、インターホンを押すと、奥様に続いて出迎えてくれたお嬢ちゃん。あー感謝祭の日、焼肉をしている3人家族にカメラを向けるとポーズをとってくれた、あのときのお嬢ちゃんだ。

玄関土間に薪ストーブ炎を見てキャンプ気分

「まさか転動になるとは」とご主人が昨年(2019年)を振り返る。弘前に転勤になったのは8月のこと。職業柄、転勤が付きものとはいえ、「何もこれから家を建てる時にならなくとも……」と笑う。

自宅が完成したのは今年3月。休日に自宅に帰れば、薪ストーブのそばに陣取って、毎日見られないぶん炎を眺めながらキャンプ気分を味わうのだそう。奥様が笑って、「そんなに寒くないのにね、寒い、寒いって焚くんですよ」

ストーブの背後の耐熱壁に貼っているのは、沖縄の「琉球石灰岩」。数万年以上前にサンゴや貝殻などが堆積してできた



焼肉を満喫したあとと記念撮影に集まった50人の中に古川様ご家族がいるのだが、さて、どこかな……

多孔質の堆積岩で、外壁やアプローチなどに使われているものらしい。実は奥様のご両親が沖縄出身で、それで佐藤時彦代表が、「住まいに『郷里』を取り入れましょう」と進言して耐熱壁に採用したのだそうだ。

青森の山の木と、沖縄の海の恵みとが融合した古川様邸。ご主人がチェンソーで伐採したというスギから製材した6寸角の大黒柱が立つリビングでお話を伺った。

——「木の家ミーティング」に



古川様のご主人がチェンソーで伐り倒したスギがリビングの大黒柱に

参加したのがきっかけで県木住に決めたそうですね。

奥様の話 ネットで県木住を検索して、「木の家ミーティング」というものが開かれているのを知りました。それが2年前です。そもそも県木住を検索しようと思ったのは、わたしの友だちから『青森県産材の家』の本を頂いたのが始まりなんです。県木住で建てたという、その「友だちの友だち」のお宅を紹介されていました。友だちを通じて繋がりのある工務店のほうが、全然知らないよりは、近しさっていうか、安心感がありますよね。それでまずネットで見てみよう。そしてらホームページに「木の家ミーティング」のことが出ていたんです。

ご主人の話 県木住の名前だけは知っていましたよ。私の職場にも県木住で建てた先輩が2人いましたから。

奥様の話 ミーティングに参加してみても正解でした。何が良かったかと言いますと、実際に



2階ホールに設けたご主人の書斎スペース

垢材の柔らかく温かい足触りは自然のものだからこそ健康にいい。——その方の体験を通じたお話には説得力がありました。

ご主人の話 展示場や完成見学会に行っても、正直なところどこをどう見ればいいのか分かりません。外観や室内の造りが自分の好みかどうかは分かるけど、好みだけで判断していいものなのか。ですから、実際に建てた人の体験談を聞きたかったんです。建てた人も、頼むまでにはあれこれ迷いもあつたでしょうしね。「木の家ミーティング」がまさにそれに応える内容でした。

奥様の話 ある会社の見学会でアンケート用紙に住所と名前を書いたら、営業マンが訊ねてきてびっくりしたことがあるんです。びっくり、というよりは嫌ですよ。なんか押し売りされるみたいで。土地も買わなければなりませんし、どこがいいか、いちおう絞り込んではいま

したけど、いざ決めるとなると、待てよ、もつといい所があるんじゃないかと、それでまた別の土地を見たりして……。

家を建てるって、一生の一大事って言いますけど、ほんと、たいへんなものだなって実感していたんです。失敗はできませんからね。だから慎重に、ということの心境を汲み取ってくれたように、県木住では、ちっとも急かす、雰囲気はありませんでした。それが良かったですね。アンケート用紙にしても、無理して書かなくてもいいです、みたいな。「木の家ミーティング」で初めてお会いした佐藤さんのそんな対応が気に入って決めたと言ってもいいくらいです。その時点ではまだ県木住の家は1軒も見えていませんでしたけどね。

伐採、壁・床塗りに参加 家づくりを家族で体験

ご主人の話 薪ストーブを付けようと思ったのも、「木の家

ミーティング」で体験談を聞いてから決めたんです。薪ストーブのことはそれまで念頭にありませんでした。薪を割ったことすらなかったですから。それにもし転勤になつて単身赴任することになれば妻がひとりです。薪ストーブを扱えるのかどうか、それにも不安がありましたしね。

奥様の話 そしたら、佐藤さんが声をかけてくれたんです。



2階のお嬢ちゃんの部屋。レトロ感のある建具もスギ、床も天井もスギの落ち着いた空間で、勉強に集中できそう

建てて住んでいる方の「体験談」を聞いたことです。建ててから5年になるというその方が、自宅の写真を撮ってきて、スライドで上映してくれたんです。勉強になったのは、たとえばリビングの床板の表面のキズとか、色が褪せてきたことを、ありのままに話されたことです。普通はそういうところは言わないじゃないですか。それにあって触れて、でも、床は無垢のスギ板だからキズも付けば色も褪せてくる。それは当たり前前のごとで、むしろそうならないことのほうが不自然だ、と。

工場で加工した合板だとキズは付きにくいけど堅くて冷たい。だからスリッパを履く。無



チェーンソーで大黒柱にするスギを伐採するご主人④と
奮闘する様子を見守る奥様とお嬢ちゃん⑤

薪を割ってみませんか？

ご主人の話 場所は、佐藤さんのご自宅に近いという岩木川の河川敷でした。そこで薪割りを見せてくれたんです。実際にやってみたら、これが楽しかったですよ。斧を振り下ろして、スパッと割れる、あのときの爽快感。体が喜ぶっていう感触ですよ。それで薪ストーブを付けることにしました。

——転勤になって却って、休日に帰られたときに「自宅の良さ」のようなものを感じられるのでは。

ご主人の話 リビングの床の足触りが違いますね。それに木

の香り。転勤先のアパートの床は、合板っていうんですか、堅くて冷たくてね。それが家に帰るとくるとぜんぜん違うんですよ。家を建てるまで「無垢材」というものにあまり関心はありませんでしたけど、冷たさから解放されるみたいなの、ほっとするものがありますね。健康にいいというのが実感として頷けます。

奥様の話 見積もりは予算よりオーバーするものだとはい

だちからも聞いていましたけど、やっぱりオーバーしました。さて、何をどうして調整するか。キッチンと対面するリビング側の壁に予定していた作り付けの棚を思い切って止めることにしましたし、タイルは玄関と土間だけにして玄関前の外階段はタタキだけにしました。薪ストーブを置く土間のタイルも止めようかと思ったけど、佐藤さんが、そこは目に付く場所だからタイルのほうがいい、とアドバイスしてくれました。タイルとタタキとじゃ雰囲気全然違いますものね。完成してみたら、そのとおりでした。

奥様の話 普通は、家が完成するまでは業者さん任せで、完成したらその家に住む——そういうものなんでしょうけど、できればちよつとでも家づくりに参加したいって思っていたんです。その点も県木住はびつたりでした。ちよつとどころか、大黒柱にするスギを（主人が）チェーンソーで伐採しましたし、

ご主人の話 焼肉の「感謝祭」には何年も前に建てた人たちも来られていたようで、県木住はユーザーとの繋がりを大事にしていますよね。その姿勢が安心感に繋がるのでしよう。それは、「木のファミリーリング」で感じた第一印象のままです。

で体験させてもらいました。
ご主人の話 家族の「手形」も作りましたしね。記念になります。

青森の木で家をつくる 企業組合



青森の木で家をつくる 企業組合

県木住

企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子子福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com
■アーバンタウン石江 県木住展示場
青森市石江字岡部47の28



株式会社 県木住



6社の展示場勢ぞろい 県木住 木と薪ストーブ

「青森県の木で建てた住宅」——を要約すると、「県木住」。この企業名のとおり、土台はヒバ、柱はスギ、梁はアカマツなど青森「県」の山に育った「木」を生かす「住」まいづくりが、県木住のこだわりだ。——もともと県が進める県産材普及事業の攻めの拠点として1999年に設立された『青森県木造住宅普及推進協同組合』が母体。外材の集材材が主流の時代に、青森スギの無垢材を使う家づくりを開始した。協同組合の略称を継承し「企業組合県木住」を起こしたのが16年前。引き続き、今回の合同展示場を「新たな拠点」として「青森県産材の家」を発信していく。

「県木住の展示場は、展示場らしくないところが特徴と言え

ば特徴です」 佐藤時彦代表はそう話す。

設計を担当したのは、2級建築士の女性社員。家の真価は、実際に暮らしてみても快適かどうか——。それには、母でもある女性社員の自身の生活を通じた

体験が肝心。「見た目」ではなく、日常に視点を置く「主婦目線」で設計した「生活展示場」といえる。

展示場を建てたのは今回で2棟目。かつて青森市幸畑にあった県木住の単独の展示場ではなく、「6社合同」が違ってくる。各社それぞれの特徴を打

アーバタウン石江 合同展示場

青森スギの家づくりを発信する“新たな拠点”

訪問>>>

県木住「木の家」展示場

- DATA**
- 青森市石江岡部47の28
 - 2020年9月26日オープン
 - 延べ床面積/34.67坪(114.84㎡)
 - 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(一部外壁、柱、ウッドデッキ)、アカマツ(梁)。





ウッドデッキに面した大開口からやさしい陽光が射し込むリビング

ち出した展示場が、新青森駅に近い青森市石江の2200㎡の土地を囲むように建ち並んでいる。県木住の展示場の特徴は、黒い外壁と、屋根に立つ煙突だ。

「合同」の形態に参加したのは、「1社だけでは集客できなくなってきたから」と佐藤代表は話す。そこで、同じ考えの地元工務店6社が結集し、合同で展示場を建てて集客力を高めよう、とスクラムを組んだのだ。

その形態で成功した前例が、五所川原市でスタートした『ミ

ライエ』プロジェクト。11年前に、家業の工務店を継ぐ2代目たちが「エルム」のそばに土地を取得し、展示場を建てたのが第1期。1年ごとに売却する。

家を売るといふより、センスの良い住宅が並ぶ「タウン」として売る——という新しいスタイルが好評で、現在は第7期まで進んでいる。

その「青森版」がアーバタウン石江合同展示場だ。プロジェクト名は「AHBA・BAS E」(アーバ・ベース)——「A o m o r i Home B u i



県木住のシンボルともいえる玄関土間の薪ストーブ



柔らかく温かな足触りが特徴の床に張った無垢のスギ

lders Architects・Baseの略」。――。

「ライフスタイルに合うマイホームを見つけたい」を合言葉に、「来て・見て・体感して」と6社のノボリ旗が手招く場所である。

勢ぞろいした展示場には圧倒される。目移りもする。そこで県木住の「木の家」では「ここを見てほしい」「感じてほしい」など「こだわりのポイント」を、佐藤代表にガイドしていただいた。

床に張った無垢のスギ 柔らかく温かな足触り

――前身の協同組合から通算すると、建てた家は累計で何棟になりますか。

佐藤代表の話 150棟です。展示場を入れれば今回の石江で152棟。リフォームなど小工事も含めると200棟を超えます。

――その全部が青森県産材で建てた家なのですね。

佐藤代表の話 青森「県」の

「木」の「住」宅ですから、そこは外せません。

――今ではスギ板を張った床は普通に見かけるようになりましたが、協同組合がスタートした20年前には抵抗があったのではありませんか。なにしろ津軽では「木」といえば「ヒバ」が根強いですから。

佐藤代表の話 当時は、住宅の構造材には外材の集成材が使われるのが当たり前でした。床はピカピカの化粧合板フロアで、壁・天井はビニールクロス。

「県産材といえばヒバでしょ」と、スギを使うことに対しては木材関係者から「ノー」を突き付けられました。「柔らかいスギを床に張るなんて」と。キズが付きやすく、クレームになる。床を張り替えなければならなくなる――と、クレーム要素のある材料は敬遠されて、床材はキズが付きにくい工場生産の合板フロアが主流だったので。その流れに逆行するように「スギ」の、しかも「無垢材」を使



女性社員が“主婦目線”で設計したキッチンスペース。ダイニングや、向かい側のリビングまで見通せる

おうというのですから、全面的に反対を食らいましたが、協力してくれたのはお客様でした。幸畑の展示場に来られたお客様が、「モルモットになったつもりで床はスギを張ってみましょう」と採用してくれたのです。『拾う神』でした。

スギは柔らかいといつても、それは表面だけのことで、建築用材としての強度には問題はないことは検証されています。ヒバは全国に知られる銘木ですが、それと比べてスギを劣った木材と見なすのは偏見に過ぎません。

木にはそれぞれ特性があります。『柔らかさ』がスギならではの持ち味なのです。柔らかいから、温かい。足触りが心地よい。床暖房も必要なく、真冬でも裸足で過ごせる。だから健康

にいい——そうした自然の木の恵みがじわじわと浸透して、今ではスギが当たり前のように使われるようになりました。スギだけでなく、アカマツやナラなども床に張られているところが20年前と大きく変わったところですね。

浪岡の新事務所の広い敷地内に展示場を建てる計画はなかったのですか。

佐藤代表の話 1社

単独の展示場ではお客様が来なくなってきました。時代が変わったのですね。もっと集客を高めるためにはどうしたらいいか、去年の春頃から模索し出したときに、青森市内の材木店から合同展示場の話が持ちかけられたのです。その材木店も、

今までどおりに工務店からの注文を待っているだけでは活路は拓けないから何か手を打たなければ——と考えていたのは同じだったようです。注目したのが、五所川原市で合同展示場を展開している『ミライエ』でした。地元工務店の2代目の若手たちが始めたプロジェクトで、11年経った今でもうまく展開しているのです。見做つて、「青森市でもやってみませんか」との材木店の誘いに、

押し寄せてきたわけで、要は『勝負の年』になりました。

—— 県木住としては、お客様に展示場のどんなところを見学してほしいですか。

佐藤代表の話 コンセプトは『主婦目線』です。設計したのは当社の女性社員で、2級建築士で、主婦であり、母です。自分の日常生活や子育て体験を通して、ここはこうしたほうが便利とか、もしも今住んでいる家を建て替えるならこうしたい、あーあしたいという主婦の視点で設計しています。見学されたお客様から、「なるほど」と共感が得られれば、と願っています。

燃料の薪を自分で作る 家族が集まる 炎の周り

—— 玄関土間の薪ストーブに真っ先に目が惹かれますね。

佐藤代表の話 薪ストーブが県木住のシンボルです。今では当社で建てる家の6割は薪ストーブを付けています。そこま

ほうから薪ストーブを要望されるわけではありません。薪ストーブを薦めると、「え？」「暖房は薪ストーブなの？」「薪はどうするの？」「自分で割るの？」と矢継ぎ早に質問を受けることになります。でも、薪割りを体験すれば、がらりと変わるのです。楽しいっ！と。薪が割れるときのあの手応え。小気味いい音。エアコンやFF式ストーブでは味わえない爽快感に魅了されるのでしよう。「薪ストーブのある暮らし」を推奨している理由は、「薪もまた『地元の山の木』だからです。家づくりにも、暖房にも『地元の木』を使うことで、家から排出される二酸化炭素の減少に繋がります。木を伐つては苗木を植える、ことで成長過程の木が二酸化炭素を吸収してくれます。外材の輸入過程で排出される二酸化炭素も減らせます。すぐに温暖化をストップさせることはできませんが、木の成長と同様に、長い時間をかけて取

り組んでいかなければ効果は現れません。あまりに『効果』ばかりを早く求めてきたツケが温暖化の原因になっているのでしよう。「環境」とは買うものではなく、『伐つては植える』ことを繰り返すことで『浄化』されていく『もの』だと考えます。山が元気でなければ環境も良好に保たれません。

——「薪ストーブ愛好会」があるそうですね。

佐藤代表の話 「くべる部」と言います。「語り部」にならって「くべる部」。会長を務めるSさんも当社のユーザーで、薪を調達するために青森空港の近くの山を買い、自らチェーンソーで木を伐り倒し、斧で薪割りをしています。立木を伐倒する野性味に魅了されて、林業従事者の資格まで取得した『熱い人』です。

——薪ストーブは全国的にも増えているとか。

佐藤代表の話 自分で薪割りをして、火を点けるといって、昔



柔らかな間接照明が目によさしい和の空間

ながらの生活に“参加する”ことに新しさを覚えるからではないでしょうか。暖房は灯油を

買う、エアコンはスイッチ一つ、風呂もボイラーでこれもスイッチ……と、便利だけど何か物



リビングの先に広がるウッドデッキは、家族のお楽しみイベントのステージ

足りない、味気ない時代になってしまった。斧で割る、薪を持ち運ぶ、火を点ける……といった作業がことごとく手から離れ、スイッチになってしまった。薪割りに新鮮味を覚えるのは、自分の手で燃料を作り出すことに“やりがい”を覚えるからだと思うのです。ご主人だけでなくお子さんも一緒に薪割りをする。薪が少なくなってくれば子供たちも庭の薪棚から薪を運んできて手伝う。当番制にして子供に役割を与える。家族で生活に参加する。火の回りに集まる。繋がりが濃くなる。火の持つ力でしょう。

インナーウッドデッキ 家族のBBQステージ

——ウッドデッキが家の内側に食い込んでいますが、その意図は？

佐藤代表の話 一般的にキッチン、ダイニング、リビングは直線で配置して、ウッドデッキは外部に付け足すように設ける

プランが多いです。それを、コの字のインナー型にして食い込ませると、ウッドデッキが“家の中にある”という感じになります。総2階建てだから、食い込んだ部分の上にかかる2階が屋根代わりになります。ウッドデッキそのものの広さは6帖あって、その半分が家の内側にあるので、雨が落ちてきてもすぐに避難できるメリットもあるわけですね。

デッキの主役は“バーベキュー”です。家族でのバーベキューって人気なんです。それを実感させられたのが、今年7月に新事務所の敷地で行った「ユーザー感謝祭」BBQ食事会でした。完成した新事務所のお披露目を兼ねて開いたのですが、ご参加いただいた15組のユーザーのうち13組がマイバーベキューセットを持参されたのです。一家に一つみたいに皆さん持っているのです。家の外での食事“家族のお楽しみイベント”のようになっているのだと思

ます。家族一緒に凝縮した姿がバーベキューなのです。

キッチンに立てば、ウッドデッキを囲む掃き出し窓越しに、ダイニングや、向かい側のリビングまで見通せるところも主婦目線の設計です。キッチンからすぐ手が届く階段下に食品庫と冷蔵庫スペースを設け、水回りはその隣にまとめています。4畳半の和室は予備室で、親や友人が遊びにきたときの宿泊室にもなります。子供たちの勉強部屋にも、昼寝もできる重宝な空間です。

布団干せるよう窓広く 子供部屋は壁なく開放

——2階の設計で「主婦目線」が生かされたところは。

佐藤代表の話 窓です。南側（ウッドデッキの真上）の大きな窓。幅を1間半（約2・73m）と広く取ってあるのは、布団を干せるようにとの配慮からです。1間だと、半分開けた窓に布団の端が引っかかります。

——2階の中央にクロゼットがありますが、どのような利点があるのでしょうか。

佐藤代表の話 今はやりなんだそうですよ、若い世代でね。実は私も、お客様から教えられたんです。打ち合わせ中にお客様が言われた「ファミクロ」を知りませんでした。ファミリークロゼットの略なんだそうです。主寝室とか子供部屋にそれぞれ収納を付けるのではなく、中央に設けて、親と子供がどちらからも使えるようにしたところが今どきの「ファミリー」の形なのでしょう。

——子供部屋は壁で仕切っていませんね。

佐藤代表の話 いちおうこの家は平均的な4人家族を想定しています。2人の子供部屋は最初から分けるのではなく、自分の部屋が欲しい年頃になったら仕切れるようにスペースを確保してあるだけです。小さいうちは伸び伸びと走り回れるほうが喜ぶますしね。区切らず

開放したスペースを「物干しスペース」と使えるようにしたところも主婦目線です。小さいお



①窓を広く取ってあるのは布団を干せるようにとの配慮から
②子供が小さいうちは仕切らずに広いスペースでのびのびと



子供部屋は区切らずに開放して、「物干スペース」として使えるようにしてある

子さんが2人なら毎日洗濯物があるでしょうから。
——そりい踏みした展示場に見るほうも目移りするでしょうね。

佐藤代表の話 最初はそれでもいいと思います。見て、話を聞いて、完成見学会にも足を運んでいるうちに「自分たちが求めるものが絞り込まれてくる、そういう流れでいいと思います。「家」は人生で一番高い買い物で

す。それなのに、「現物」ができません。上がるのが一番最後なので、から、どなたも内心は不安なはず。不安はあるけど決断しなければならぬ。求められるのが「信頼」です。「頼んで良かった」とお施主の満足がいく家を建てて応える、のが工務店の仕事です。

当社では、「造った家」ではなく、「造る過程」を「売り」にしています。山に行つて大黒柱にす

るスギを施主にチェーンソーで伐つていただく大黒柱伐採体験や、室内の漆喰壁塗りやスギの床塗り体験を通して「一緒に家を造る」ところにポイントを置いていきます。

「売り」は各社各様です。それぞれ建て方に特徴があります。ただ、「AHBA・BASE」精神とでも言いましょうか、自社ばかりを売り込むのではなく、要望に沿えないと判断したお客様には、他の5社のうちの、合いそうな工務店を紹介する、その心配りが求められます。それがうまくいつているから五所川原の『ミライエ』は続いているのです。「共栄」の精神で応対していれば、他社からの紹介でお客様は返つてきます。

6社共々、第2期、3期……へと合同展示場を展開していきたいものです。

■展示場見学の申し込みは

県木住事務所へ

青森市浪岡徳才子字福田60の2

TEL 0172(55)7793



青森の木で家をつくる 企業組合
県木住

企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com
■アーバンタウン石江 県木住展示場
青森市石江字岡部47の28



株式会社 梶木住



第13回あおもり産木造住宅コンテストの応募作品のうち、「現地審査」の対象に、企業組合梶木の〇様邸が選ばれた。建物の外観・内観を審査し、最優秀賞1軒と優秀賞2軒が決まる。〇様邸は、つまりはどちらかを受賞することになる。現地審査の日、すでに八甲田山が初冠雪したこの時期の快晴は貴重だから、内観の審査が行われている間に、こっちは先に外観の撮影をした。外壁の黒と、玄関前を囲うスギ板の黄色とのバランスが程良い。駐車スペースのタタキを半円形にくり抜いた中に土が。そこに木を1本植えれば「庭」になる——飾らぬ趣向は住む人を表わす。

「いいですねえ、ここ」。審査員の建築士が足を止めて眺めていたのは、玄関を入ってすぐの洗面台があるコーナーであった。手洗いの水が出ないタイプのトイレなので、戸の外に洗いの場を設けた、と奥様。洗面・浴室が2階にあるから、1階の和室に宿泊客があったときには洗面所にもなる、という。建築

士が「いいですねえ」と目を向けるのは、そのコーナーの雰囲気であるらしい。戸のスギ板と、囲む壁の白い漆喰と、電球色の明かりとのコントラストが柔らかく温かく優しい。こういう狭い空間にも造り手の細やかな配慮が行き届いている——と評価した。(トイレの戸だけだけでなく建具の明かり窓にはすべて深浦町にある「白神硝子」のこぎん模様ガラスをはめ込んである)

父親の持山から伐り出した木を生かす スギは柱に、アカマツはテーブルに



2020年度第13回あおもり産木造住宅コンテスト
最優秀賞受賞

ユーザー訪問>>>

〇様邸

- DATA
- 青森市富田 2020年3月竣工
 - 床面積/34.75坪(114.87㎡)
 - 使用青森県産材/ヒバ(土台)、スギ(床、柱、一部外壁、靴箱)、アカマツ(梁、テーブル、テレビ棚)など。



外壁の黒と、玄関前を囲うスギ板の黄色とのバランスが程良い外観



和室とひと続きになっている吹抜けのあるダイニング。ダイニングの食卓テーブルは、奥様のお父様の所有する山から伐り出したアカマツで作られた

——建てよう、と思ったきつかけからお聞かせください。

ご主人の話 アパート暮らしが長かったから、いつかは建てる計画でしたけど、子供が生まれたのがきつかけといえばきつかけですね。家を建てて落ち着こうと。それが4年前です。

奥様の話 共働きで、2人も転勤族なので、異動になると、2人の職場のどっちにも通勤に便利なアパートに移るんですけど、引っ越しがひと仕事です。家を建てたこの土地は、青森市に住んでいたときの

アパートからすぐ近くだったんです。でも、当時はまだ建てる計画は先のことだったし、空き

家になっていましたしね。子供が生まれて、計画が具体化したから、恵まれたみたいにタイミングよくここが売りに出されたんですよ。

——土地と並行して工務店探しもしていたのですか。

ご主人の話 “探し”というのはちよつと違いますね。“探す”前から「県木住」の存在は身近にあったんです。県木住のことは「本」（「青森県産材の家」）で



狭い空間にも造り手の細やかな配慮が行き届いている

も見ていたし、職場でも住宅に
関連した話になると県木住の
名は出ていましたからね。そう
いう意味で、ぜんぜん知らない
工務店よりは「近く」にあった
んです。

奥様の話 いろいろ見て歩け
ば、営業の人にも期待させませ
しね。何軒か見学したのは県木
住の家だけでした。

ご主人の話 車で通りがかり
に完成見学会が開かれていた
んです。それが県木住の家でし
た。三角形の屋根と、薪ストー
ブが印象に残りました。それか
らですね、県木住の家を見学す
るようになったのは、全部で5、

6軒くらい見ました。お客様の
家だからそれぞれ間取りは違
いましたけど、床がスギで、壁
が漆喰で、それに薪ストーブが
あって、暖かそうなイメージは
共通していました。「いいな」「い
いね」——私も妻も感想は一緒
でした。

——リビングが吹抜けになっ
ていますが、O様のご要望で

すか。

奥様の話 せっかくの自由設
計なので、吹抜けによる空間の
おもしろさを出したいなと思
いました。

ご主人の話 ずっと狭苦しい
アパートに住んでいたんで、解
放感があつていいんじゃないか
と思つたんです。

佐藤時彦代表の話——O様邸
の場合、吹抜けになつているこ
の場所は、ダイニングなのです。
リビングではありません。ダイ
ニングの延長にリビングを設け
て、その上部を吹き抜けにする
となると、坪数が大きくなつて
しまいます。

お客様の間取りを作る際、必
ず確認させていただくことが
あります。テレビです。テレビを
よく見ますか？ あまり見な
いほうですか？ それをまず
聞きます。見る人にとってはテ
レビが家の主人公なのです。O
様は、ご夫婦ともあまりテレビ
を見ないということでした。そ
れで、テレビを、キッチン・ダイ



リビングや子供部屋、客室と何役もこなす重宝な空間の和室

ニングとL字形に続く和室の収納棚に置くことができましたので。リビングが必要ない分、吹抜けをとつてもコンパクトな坪数に納めることができました。

ご主人の話 なるほどね。テレビを見たいときには座卓の前に座るからそこがリビング代わりになるし、ピアノがあるので娘の部屋にもなるし、普段は開けてある4枚の引き戸を開めれば客室にもなるしね。続きの和室つて何役もこなす重宝な空間なのですね。

父所有の山の木を伐採 アカマツはテーブルに

壁のマグネットボードに貼ってある写真は、スギを伐採したときの記念ですね。

奥様の話 父の所有する山が十和田にあるんです。両親は千葉に住んでいますけど、父の出身が十和田で、昔、祖父の山に隣接する山を買っておいたんだそうです。家を建てるならその山の木を使えばいい、と父に言

われて、そうだな、せっかく山があるんだからその手もあるな、と。実現できたのは、林業関係に知り合いがいるという上司の計らいでした。チェーンソーでスギを伐採する体験までさせてもらいました。上棟式に千葉から駆け付けてくれた父が、これか、と立っているスギの柱に触れている姿を見て、良かったって思いましたよ。

ご主人の話 この食卓テーブルも、山で伐ったアカマツで作ってもらったんです。思い出のあ

る分、愛着があります。

佐藤代表の話 打ち合わせのときによくご主人が口にされていた言葉——「うちの嫁が良ければいいですんで」。外観だけは「黒を主張し、あとは奥様任せでした。あまり沢山を望まずに、叶えたいこと、"なし"でもいいことを、一つ一つ丁寧に判断されたO様の家づくりは、結果としてバランスの良い家になったと思います。県産材でつくる家のスタンダードなのではないかと思っています。



チェーンソーでスギの伐採体験をした奥様①とO様ご一家②



青森の木で家をつくる 企業組合
県木住

企業組合 県木住

青森市浪岡大字徳才子字福田60-2
TEL.0172-55-7793 FAX.0172-55-7559
http://www.kenmokuju.com E-mail: info@kenmokuju.com
■アーバンタウン石江 県木住展示場
青森市石江字岡部47の28



県木住事務所

無垢の木(1F)と

新建材のモダン(2F)が融合



ユーザー訪問>>>

漆戸 琢矢 様邸 兼 展示場

DATA

八戸市東白山台 2020年2月竣工

■床面積/38坪(125.62㎡)

■使用青森県産材/スギ(柱、下地材、風除室壁・天井)など。

自宅であり展示場にも 希望者には室内を公開

総2階建て、延べ38坪。玄関前に立つと、1階から真つ直ぐ立ち上がる黒くて太い煙突が目に入る。ミヨシプラスといえばペレットストーブがお馴染みだが、漆戸琢矢様邸のリビング(16帖)には、薪もペレットも燃焼可能なハイブリットタイプを設置。日中は薪を焚き、夜中は低コストのペレットを焚いて経済的な24時間暖房ができるところがメリットだ。

2月のラジオ放送では、リポーターが漆戸社長に、まずは「社名」のことから尋ねた。

「ミヨシプラスとはどういう意味なのでしょうかね?」〇〇ホームとか、□□工務店なら分かるけど、カタカナの『ミヨシプ

ラス』だと、初めて聞いた人は「何屋さん?」となりそう。漆戸社長がこう答えた。

「近江商人が大切にしていた『買い手よし』『売り手よし』『世間よし』という『三方よし』の精神から頂いたものです。三方よし、で『ミヨシ』です。それまでは個人の『健康住宅工房ライフ』として活動していましたが、今後、事業を展開していくには、会社だけがいいんじゃないかって、まずお客様よし、社員・職方(職人)もよし、さらに世間もよ





木の空間に包み込まれる16帖のリビングルーム。冬にはストーブの炎が癒しを添える

くなければだめ、と考えまして、平成26年に法人化し、社名も変更しました。さらに、環境によし×日本によし×地域によしというプラス思考も社名に込めて『ミヨシプラス』とした次第です。家を建てるだけでなく、時代の先端を行く快適な暮らしを提案しようと、太陽光パネルと蓄電池を組み合わせた最新の太陽光発電システムの販売も昨年から始めました。東日本大震災クラスの大災害が発生して停電になっても、避難所に行くこともなく自立した生活ができる家づくりを目指しています」

スタッフは若手・熟練合わせて6人。そのうちの若手大工の筆頭が漆戸琢矢様だ。広いリビングに鎮座する薪兼ベレットストーブ。置くだけで室内が引き立ち、インテリアにもなる洗練されたデザインはフランス製という。オリジナルの木製食卓テーブルに座り、漆戸琢矢様と漆戸社長からお話を伺った。

変えた1階と2階の造り 好みで選ぶ無垢か建材か

——放送で「1階はナチュラ
ル、2階はナチュラルモダン
スタイルの造り」と話されて
いましたが、分けたそのねら
いは？

漆戸琢矢様の話 1階が無垢
材を使った「木の家」で、床と天
井にアカマツを張っています。
ドアや建具もアカマツで作った
オリジナル品です。2階は、が



床も天井も、ドアや道具も無垢のアカマツ。鉛色の空間がいかにも「木の家」

らりと変わって、一般的な「新建
材」で仕上がっています。1階は
木の空間が好きな方に向いてい
ますし、2階はモダンな感じが
好きな方に向いています。色合
いも1階は明るい鉛色の木肌
で、2階はウォークインクロー
ゼットの扉もカーテンも渋めの
こげ茶色と対照的です。好みば
かりは人それぞれですからね。
——そういう2つのパターン
に分けていることを、最初に
見学者に伝えるのでしよう



ソファに座ってくつろぎのひととき。日中は薪を、夜中はペレットを燃やせば
効率的な24時間暖房用の兼用ストーブ



キッチンリビングの中央部分と対面する位置に設け、玄関にもリビングにも洗面・浴室にも通じる回遊動線が便利

か。

漆戸琢矢様の話 いえ。ひとつ
 おり見ていただいた後で言いま
 す。それで、どっちの雰囲気がお
 好きですか？ と。最初に話し
 てしまうと固定観念ができ
 ちやいますからね。見学に來ら
 れた奥さん方の半分以上が「好
 きな雰囲気」は2階でした。断
 然1階、と明言したのは年輩の
 方が多かったですね。

——見学者の質問は、どんな内
 容でしたか。

漆戸琢矢様の話 1階の床が

厚さ30mmの無垢のスギ板ですの
 で、よく聞かれたのが、「無垢材
 はキズが付くのでは？」「汚れが
 付きやすくて目立つのでは？」
 でした。「キズ」を気にされる
 方つて多いんですね。でも、私、
 今回自分の家を建ててみて思
 うんですけど、人がそこに住ん
 でいるのだから、キズや汚れが
 付くのは自然なことじゃないで
 しょうか。小学2年生の長男を

筆頭に、女、男と子供が3人い



天井の照明の光度を変えて雰囲気演出できる

て、走り回るし、ふざけることもケンカすることもあるからキズも付くでしょう。子供たちが成長してしまえば、キズ跡は懐かしい思い出になるはずです。"わが家の歴史"ですよ。それに、キズが付いても無垢材の表面を削れば新品になるんです。何度でも蘇るところが"本物の木"の魅力です。

では、一般の集成フロアは「キズ」が付かないか、といいますと、確かに「付きにくい」製品もあるけど、削って修正することはできません。そこが無垢材と大きく違うところです。

—— 20代で家を建てようとい前から決められていたそうですね。

漆戸琢矢様の話 結婚が早かったですからね。20歳で結婚したんです。今、28歳で、上の子が小学校に上がるときに建てようと思っていましたから、となると20代で、ということになりますよね。家を建てて何がいちばん良かったかって、子供たち

ちのはしゃぎぶりですね。以前はアパートに住んでいましたから、子供たちが飛んだり跳ねたりできないわけです。やめなさいって叱られるから。叱る親だつて周りに気を使っているわけで、窮屈でした。ね。解放されたみたいの子供たちは走り回っていますよ。

—— 自宅を建てたことで、大工として何か意識の変化はありましたか。

漆戸琢矢様の話 ありますよ。たとえば「ここに収納を設けたほうが便利ですよ」とかね、自分の体験を通してアドバイスできるようになりました。これまでは図面通りにお施主様の家を建てていたし、それでいいと思っていたけど、建てるのが自分の家となると、ここはこれでいいか、もつといい方法はないか、とか、気合を入れてやるわけですよ。完成してみても、やっぱりああして良かった、とかね。大工でもそうなのだから、お施主様には、「こうしたほ

うが……」と、後で喜ばれるような提案をどんどんしていきたいですね。

トイレ内にしやれた鏡 暖房付きの洗面の照明

（"ちよつとこれを見てくださ"いと、漆戸社長が椅子から立ち上がった。洗面所の入り口から指さしたのは、

天井の照明器具。UFOの円

盤を想わせる円形で、スイッチを押すと明かりが点いたところまでは普通の照明であったが……）

漆戸社長の話

その下に立つてみてください。（立つてみた）なんか違いませんか。（脳天が熱くなってきた）これ、暖房も兼用した照明器具な

んですよ。照明＋暖房のアイデア商品ですね。洗面所の暖房というと普通は小型の電気ヒーターとかファンヒーターなどが使われているけど、足元に置くと邪魔になりますよね。掃除がしにくかったり……。そういう問題を解決したのがこの器具で、名もない小さなメー



暖房を兼用した洗面所の照明器具。スイッチをつけてこの下に立つと頭部が暖まってくる。真ん中がライトで、その周りが熱くなるしくみ

カーが開発したもののなんです。売れるとなると大手が乗り出して大量に生産するようになるけど、始めは、小さな電気屋が生き残りをかけて頭をひねり知恵を絞ってアイデア商品を生み出すわけです。天井に暖房を付けるなんて、普通は思い浮かばないですよ。

(洗面化粧台を置いた“場所”にも工夫が見られる。一般的に洗面台は脱衣室と一緒の場合が多いが、この家では、廊下の端に設置されているのだ。脱衣室に洗面台があったとしたら、家族が多い場合に不具合が起こる。お嬢さんが朝風呂や朝シャンをしていけば、洗面所で歯を磨いたり顔を洗ったりできないことだ。言われてみると確かにそうだ)

漆戸社長の話 トイレにも、ちょっとしたアイデ

ア商品を採用しています(案内してくれた)。遊びに来られたご婦人が、化粧を直したいときに、「洗面所を貸してください」とは言えませんが、でも、トイレの中に洗面所みたいに鏡が

あると、便利なんです。化粧台代わりになるんです。人目を気にせず鏡と向き合える。しかも、その鏡が、ただ四角な変哲のないものじゃなく、しゃれた円形で、鏡面の下部に付いてい

る○印を指先で押してみたら、パツと鏡の周りに間接照明が灯った——となると、「あらあ、素敵！」となります。東京のビッグサイトで開かれた展示会で見つけたんです。これも名も



トイレの壁に取り付けられた間接照明が灯る鏡。化粧台代わりになる

ない小さな企業が開発した商品なんです。面白い発想ですよね。固定観念から弾けたような、「普通」とか「従来」とかに捕らわれない、こういう新しい発想のものを積極的に採り入れて提案していきます。暮らしが楽しくなるように。

見せる展示場ではない 実際に「生活」する家

漆戸琢矢様の話 一般に「住宅展示場」というと、豪華です

ね。見学者にアピールするようにお金をふんだんにかけて造るのだから豪華になるわけです。「見た目」が勝負ですからね。でも、家って人が暮らす所で、毎日の生活の場にとって大事なものは「見た目」じゃなく、「暮らしやすさ」のほうです。わが家は、1階はリビングをメインにしてのびのびと広く、2階には主寝室と子供部屋、それと妻の要望の洗濯物を干すランドリールーム(4帖)を取って



階段わきにさりげなく設けた飾り棚のニッチ



新建材を使用したナチュラルモダンスタイルの2階洋室

ます。子供部屋は基本4・5帖。成長する過程、進学などで出ていくとき、戻ってくるときに自在に変化できます。

実際に住んでみて、妻の一番のお気に入り、対面式のキッチンです。キッチンの位置ですね。リビングの端じゃなく、中央で向かい合っていて、左側は玄関ホール、正面はリビング、右側は洗面・浴室へと繋がる回遊動線がとても使い勝手が良いのだそうです。見学される方も、展示場としてじゃなく、実際に5家族が暮らしている生活空間として見学していただけばと思います。

太陽光パネル＋蓄電池 初期費用が「0円」!?

— 新しい方式の太陽光発電を搭載しているそうですが。

漆戸社長の話 お施主様が太陽光パネルを買い、工事代も負担する—という従来のやり方とは根本的に違います。この家の屋根には太陽光パネルを20

枚搭載し、発電した電気は蓄電池に溜めておくようになっています。

が、パネルの費用も、蓄電池も初期費用が0円なんです。初めて聞く方は、えっ? とびっくりされますよ。これ、当社がメーカーとタイアップした方式なんです。だから「初期費用0円」が可能になったのです。月々基本料金

くらの電気代を払い、10年もすれば「自分のもの」になります。

これからは自分の家で発電し、蓄えて使う時代です。新しい生活様式はもう始まっています。見学においでの際にはぜひ



子供部屋は基本4.5帖。成長過程に応じて変化できる

この画期的な太陽光発電システムの話も詳しく聞いてください。

.....

●見学ご希望の方は、(株)ミヨシプラスに電話で申し込んでください。

☎0178-8017357

いえ しあわせ ゆめ
家づくり 幸づくり 夢づくり



株式会社 ミヨシプラス

八戸事務所

八戸市石堂3丁目3-9 2階

TEL.0178-80-7357 FAX.0178-80-7318

E-mail : info@miyoshiplus.jp

